

氏名	すーぶすく なばーしにー SUEBSUK NAPHASINEE
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第812号
学位授与の日付	平成28年9月26日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 造形科学専攻
学位論文題目	THE COMPARISON STUDY ON TRANSFORMATION OF HISTORICAL COMMUNITY; THE CASE OF AMPHAWA, SAMUTHSONGKRAM, THAILAND AND NINEIZAKA SANNEIZAKA, KYOTO, JAPAN (歴史的町並み保存地区の変容に関するタイと日本の比較研究)
審査委員	(主査)教授 中川 理 教授 石田潤一郎 准教授 矢ヶ崎善太郎 准教授 大田省一

論文内容の要旨

本論文は、タイと日本それぞれの町並保存事業の先進地として知られるアムパワー水辺集落、および二寧坂・産寧坂(重要伝統的建造物群保存地区)を対象として、建造物の変遷と使用者へのインタビューを行い、両者の比較検証から、それぞれの特徴を明らかにしたものである。

その結果、以下のことが明らかとなった。タイにおけるアムパワー運河沿いの水辺集落の再生復興事業は、伝統的建造物を民宿(ホームステイ)に改修するという手法がとられたが、これは地域固有の魅力を観光客に対して体験的に理解してもらうことで、保全につながるという、エコツーリズムの理念の実践を目指すものであった。そして、実際にこの手法は、伝統的景観を守りながら、地域に観光地としての経済的な利益をもたらすという成功を導き、この手法は広くタイの他の場所でも広がろうとしている。ただし、調査からは独自の文化の上に成立した郷土の古い家並みを「残し」、「見せる」ことに対し、観光客ではなく地域住民自身の理解を得ることが重要な課題であったことがうかがえた。また、アムパワーにおける民宿化による事業は、外部資本ではなく地域住民が主体となっていることに特徴があった。一方で、観光産業の発展による観光ビジネスの可能性は、多くの地域住民を刺激し、2004年以後、地域の経済・社会・共同体のあり方を大きく変える結果となっていた。しかし、そうした大きな変化を制御する主体の不在や、制度の未整備などが大きな課題となってきたことも明らかになった。

一方、日本の二寧坂・産寧坂の保全事業もアムパワー同様、「ボトムアップ型」としての性格も含むが、主には文化財保存の法令に基づいて進められている。住民たちは行政機関との協力関係のもとで建物の改築や景観に影響を与える町並の改修に対して、独自の法規制も設けてきた。年代ごとの運営計画、建物の所有権の変遷、そして建物の使用目的の変化についての調査により、地域住民たちの景観保護に対する認識が変化してきたことが明らかとなった。現在この地域では住民の高齢化と、これに伴い相続人不在という事態が起きており、その影響で建物の所有権・使用権の帰属先は地域外部へと推移しつつあり、旧来の住民の中には所有する建物を貸し出し、不

動産賃貸収入で生計を立てている者が少なくない。そして、これらの経緯で地域に転入して来た新世代の住民たちは、必ずしもこの地域の伝統的なライフスタイルに従って生活を営んでいる訳ではない。その一方で、地域内部の観光産業の経済循環範囲は地域の枠を超えて外部へと拡大している。これらの状況は、現行の条例による規制では統制不可能である。

以上からわかることは、タイではあくまで地域内部からの活動が発展したものであるが、日本では文化財の制度によって地域内部の変化がうながされるとう大きな違いがあることである。その差がそれぞれに課題を生み出していることが、両者の比較検討で明確化することができた。

論文審査の結果の要旨

この論文は、伝統的な町並み景観を保全するいわゆる町並み保存事業について、日本とタイの事例を比較・検証したものである。こうした事業は、世界で取り組まれるようになってきているが、国ごとにその手法や事業形態は大きく異なっている。わが国では、1975年に発足した伝統的建造物群保存地区の制度により、数多くの古い町並みの保全が実現したきた。これは国際的にも大きな成果であるが、こうした文化財制度による保存手法を、国際的な視野から相対的に評価することはあまり試みられてこなかったと言える。

本研究は、タイにおける町並み保存事業の先進的な例として知られるアムパワー運河沿いの集落の保存事業に着目し、そこで実現した民宿（ホームステイ）による町並み保存の方法と事業内容を明らかにすることからスタートしている。そして、わが国における伝統的建造物群保存地区の制度適用の先進地である二寧坂・三年坂の保全事業における同様の調査・分析に基づく両者の比較・検証という視点を導入し、それぞれの事業について評価できる点と、問われている課題について改めて明らかにしている。

そこで明らかになったことは、アムパワー（タイ）における事業については、地域の有力者のアイデアにより、大学の協力や各種の経済的な支援を得ながら、まさにボトムアップの手法として実現されたという点である。これは、日本における文化財制度を中心とした規制や誘導による手法とは大きく異なり、事業を支える地域の人々の自主的な活動に支えられていた。そのため、観光化が進んできたにもかかわらず、外部の資本が介入することが見られず、いわゆるエコツーリズムの理念を実践するような事業となっている。しかし一方で、活動の自由度が高すぎるために、保存や改修についての統制が取りにくいという点も指摘できた。

一方、日本（二寧坂・三年坂）の場合には、その統制が十分に実現しているものの、ボトムアップの性格が希薄なため、建物の所有権・使用権の帰属先が地域外部へと推移しつつあり、外部の資本が介入する部分が多くなってしまっている。わが国における伝統的建造物保存地区における事業について、こうした点からの課題を改めて指摘した点は、本研究のきわめて大きな成果と言えるだろう。

ただし、限られた期間における限られた人員による調査であるため、サンプル数などにやや十分ではない点も指摘できるが、それを既存の調査結果やキーマンへのインタビューなどにより補完しており、以上の特徴や課題の抽出については十分な説得力を持つものと判断できる。

なお、本論文の内容は、申請者が筆頭著者となる以下の審査制度の確立した5つの論文集・プロシーディングにおいてすでに公表されており、また1編の論文が投稿・審査中である。

① Modification: Homestay Approach for Urban Conservation of Historical Building in

Thailand, Naphasinee Suebsuk and Osamu Nakagawa, Nakhara. Journal of Environmental Design and Planning Vol9 October pp.1-14 2013.

- ② Sustainable Infrastructure and Conservation Ideas on Homestay Modification; Owners' Motivation and Tourists' Satisfaction in Amphawa, Thailand, N. Suebsuk and O. Nakagawa, IACSIT International Journal of Engineering and Technology(IJET). Vol6, No.5, pp.414-419, October 2014.
- ③ The Transformation and Modification on Cultural Element in Traditional Architecture to Homestay in Amphawa River-based Community, Thailand, Naphasinee Suebsuk, Osamu Nakagawa, Proceeding of the 10th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia(II) (ISAIA). pp. 1029-1033, 2014.
- ④ Transformation and Modification of Historical Building use, and Owner Motivation for Urban Conservation in the Nineizaka and Sanneizaka Preservation District, Kyoto, Japan, Naphasinee Suebsuk and Osamu Nakagawa, Urban Planning and Civil Engineering pp. 83-102, 2015.
- ⑤ The transformation and Modification of the Building Use in traditional towns for Sustainable cities; in case study of Amphawa, Thailand and Nineizaka and Sanneizaka Preservation District, Japan., Naphasinee Suebsuk and Osamu Nakagawa, International Conference on East Asian Architectural Culture (EAAC), GWANGJU, KOREA, pp. 533-538, 2015.
- ⑥ スーブスク ナパーシニー・中川 理「タイの運河沿いの集落における町並み保存について-アムパワーにおけるホームステイの改修手法」、『日本建築学会計画系論文集』、投稿中